

越生小学校

8月29日(木)の前期後半が始まった2日目にはよう運動で2・3・5年生がドッジボールを行いました。久しぶりの校庭での活動となり、それぞれのコートでは白熱した試合が行われ、一生懸命にボールを投げたり、ボールから逃げたりしていました。



梅園小学校

夏休みの成果を発表する場として、子供達が作成した作品を展示する「夏休み作品展」を8月30日～9月3日に実施しました。子供達が夏休み中に作成した作品を互いに見合って話し合い、今後の学習の参考としています。また、たくさんの保護者の方にも来校していただきました。



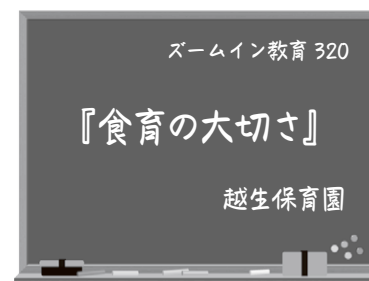
越生中学校

8月29日(木)大規模な地震を想定した避難訓練を行いました。今回は授業中を想定し、特別教室で地震発生時の対応の確認を行ったクラスもありました。訓練を通じて、災害時にとるべき基本的な行動の仕方を改めて学びました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



ドレッシングサラダや越生ご飯などを給食で提供しています。梅干しが苦手でも甘いにんじんと炊いた越生ご飯は、特に人気でおかわりする子もたくさんいます。

今年度、5月に行った保護者参加行事には、講師をお招きして「乳幼児の食べる機能の獲得について」というテーマで講演をしていただき、これからの育児に役立つ貴重な機会となりました。

自分たちが育った越生を大切に、これからも住み続けたいと思えるような楽しい体験を通して伝えていければ良いと思っています。



越生浪漫

No.188

中世石造物調査

調査に至るまでの経緯

本年7月より、越生町内に所在する中世石造物の悉皆調査並びに過去の調査記録の再整理を行っています。

越生町の中世石造物の嚆矢である『板碑集録』(昭和37年(1962))には、町内に137基の板碑が掲載されています。その後、埼玉県教育委員会が、県下全域を網羅する板碑、宝篋印塔・五輪塔などの調査を主宰し、情報や資料が集積されてきました。

①板碑とは

鎌倉時代の13世紀初めから戦国時代の16世紀末にかけて各地で、主に供養塔として造られた石塔です。板石塔婆、青石塔婆とも呼ばれる板碑は、頂部が三角形の板状の石材



板碑の拓本をとっている様子



板碑「興禅寺の板碑」(中央が町指定文化財の建武改元銘の板碑)



宝篋印塔「太平山栄円の墓」(町指定文化財)



五輪塔「伝児玉雲太夫の墓」(堂山共同墓地)

に、仏を表す梵字を配し、紀年銘、供養者や造立者の名を刻むものが一般的で、経文や願文を加える場合もあります。「逆修」といって建立者が生前に自身の冥福を祈って造立したものや、人々が協力して建てた「結衆板碑」など、さまざまな種類があります。

昭和56年の『埼玉県板石塔婆調査報告書』によれば、県内に所在する板碑は2万201基で、越生町では213基が、寺院の境内、墓地、道路の辻などで確認されています。日本最古の「嘉禄

三年銘板碑」(熊谷市・西暦1227年)や日本最大の「釈迦一尊種子板碑」(長瀬町・高さ537cm)が現存する埼玉県の板碑は、質量ともに全国一と言われています。石材には、比企郡小川町や秩父郡長瀬町で産出する緑泥片岩(青石)が用いられ、その採掘場は「下里・青山板碑製作遺跡」や「板石塔婆石材採掘遺跡」として国や県の文化財に指定されています。

興禅寺の板碑(西和田)

元弘3年(1333)、鎌倉幕府が滅亡し、後醍醐天皇が実権を掌握して新政を開始しました(建武の新政)。「建武改元」と刻まれた県内唯一

の板碑です。

②宝篋印塔とは

もともとは宝篋印陀羅尼經を納める石塔で、鎌倉時代中期以降に全国的に造立されました。平成10年の『埼玉県中世石造物調査報告書』によると、県内で2,185基、町内37基が確認されています。

太平山栄円の墓(黒山)

大平山に立つ修験山本坊開山の栄円和尚の供養塔で、室町時代の応永20年(1413)の銘が入っています。

③五輪塔とは

平安時代後期に出現したとされ、供養塔や墓石として使われる石造物です。県内で5,001基、町内では83基が確

認されています(『埼玉県中世石造物調査報告書』)。

伝児玉雲太夫の墓(堂山)源頼朝に命じられ、建久4年(1193)に最勝寺(大字堂山)を建立したとされる頼朝の家臣・児玉雲太夫の墓と伝えられている五輪塔です。

調査の目的

新たな石造物の所在を確認し、過去の調査成果に照らして移動や散逸の状況を把握したいと思っています。

古文書や古記録などの文献資料からは読み取れない地域の史の解明を進めるために、町民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。